




スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- 「必読！安全運転のために」 および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
 アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

- ◇ お車の正しい取扱い方法
- ◇ 日常点検、定期点検
- ◇ 保証内容と保証期間
- ◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成28年排出ガス規制適合車です。

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....7
取扱いの方法	各部の名称.....9 メータの見かた.....12 スイッチの使いかた.....13 ハンドルロック.....17	シート.....18 トランク.....19 ヘルメットホルダ.....19 フロントフック.....20	フロントラック.....20 ガソリンの給油.....20 U字ロックホルダ.....21
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....22 発進のしかた.....25	ブレーキの使いかた.....27 止まりかた.....28	
お車の点検	日常点検、定期点検.....30	日常点検項目.....31	
簡単な整備	簡単な整備.....32 スロットルケーブル.....32 ブレーキ.....33	エンジンオイル.....34 エアクリーナ.....37 ヒューズ.....38	バッテリー.....39 タイヤ.....41
お車の手入れ	洗車.....43 プラスチック製部品.....44	スロットルケーブルブーツ.....44 つや消し塗装.....44	保管のしかた.....45 環境を保護するために.....45
サービステータ	主要諸元.....47	サービステータ.....48	車台番号.....48

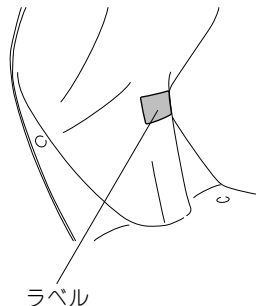
必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。



- ◇ 転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
- ◇ 取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは、頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万 one のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。

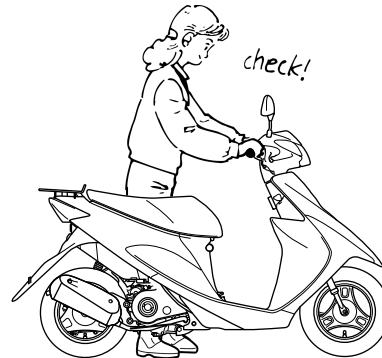


▲ 警告

ヘルメットを正しくかぶってください。
正しくかぶらないと事故の際、死亡または
重大な傷害を負う可能性が高くなります。

■ 点検整備をしましょう

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と
定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れ
した場合などは、スズキ販売店で点検を受
けてください。

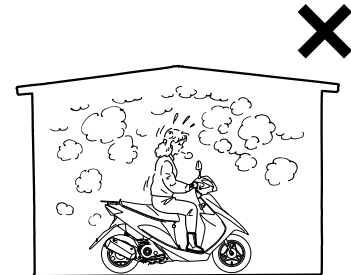


■ エンジンかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてく
ださい。

下記のような使いかたは、エンジンの温度
上昇をまねき、エンジンや車体の損傷の原
因になります。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ふかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作



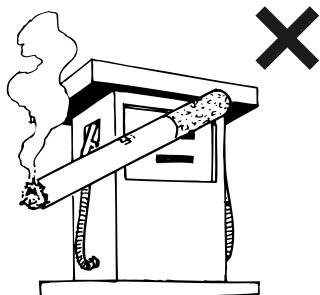
▲ 警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成
分が含まれています。しめきったガレージ
の中など、風通しの悪い場所では、エン
ジンをかけないでください。排気ガスによ
り、ガス中毒を起こすおそれがあります。

運転の前に

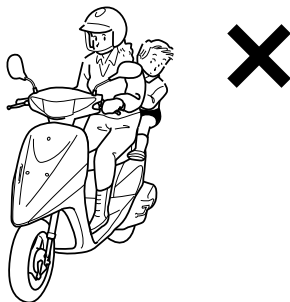
■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、必ずエンジンをとめて火気を近づけないでください。



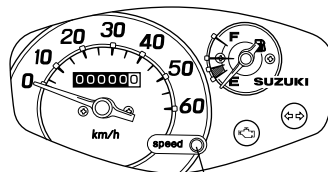
■ 乗車定員は1名

運転者以外の人を乗せることはできません。



■ 法定最高速度は30km/h

車の速度が法定最高速度(30km/h)を越えると、スピードインジケータが点滅し運転者に注意をうながします。

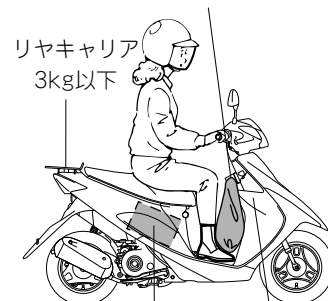


スピードインジケータ

■ 荷物

- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。
- 荷物の積載は下記重量までです。下記重量を超えて積み過ぎないようにしてください。
- 荷物は下記以外の場所に積まないでください。

フロントフック
1.5kg以下



リアキャリア
3kg以下

トランク 10kg以下
フロントラック 1.5kg以下

運転中は

▲警告

- フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするような大きな荷物は掛けしないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- フロントラックから荷物がはみ出さないようにしてください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- 荷物を積むときは、マフラやエンジンなどの高温になるところに荷物などが触れないようにしてください。荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。

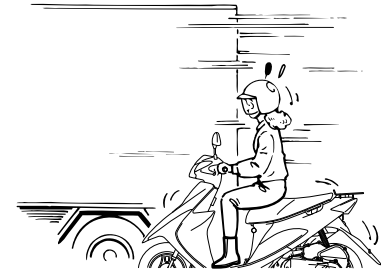
■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をステップボードに置いてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

運転中は

■ 冠水した場所は走行しない

万一冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。

また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線、バッテリーボックスへの浸水
- ドライブベルトの滑り
- ペアリングなどの潤滑不良
- ギヤオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、ドライブベルトの滑り、エンジンの破損などの原因となります。

■ 駐車するとき

車から離れるときは、必ず盗難抑止のためハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

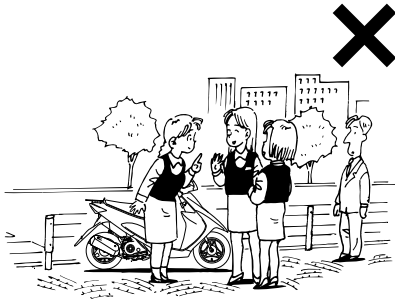
📄 17ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

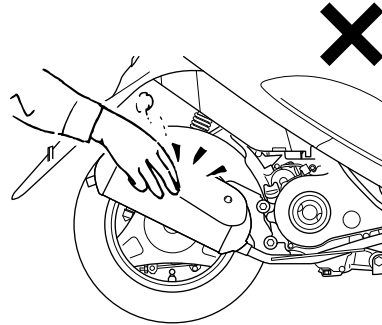
▲ 警告

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。

- 他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

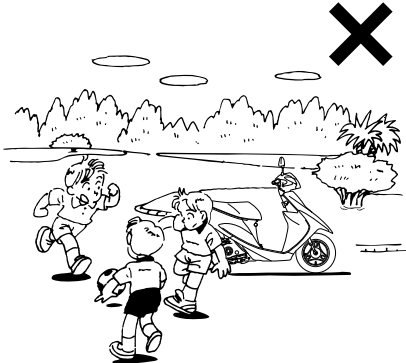


- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れないでください。



■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

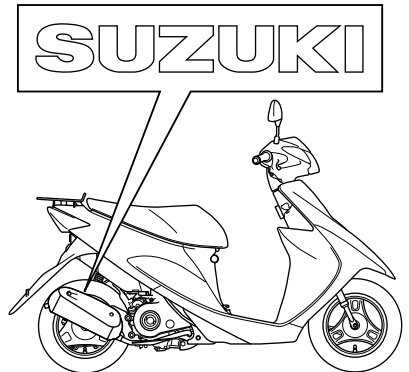


車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいてはお車の寿命を縮めることとなります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。お車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を示す“SUZUKI”マークが刻印されています。



車の整備など

- 自己流のエンジン調整、部品の取外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

■ 触媒装置について

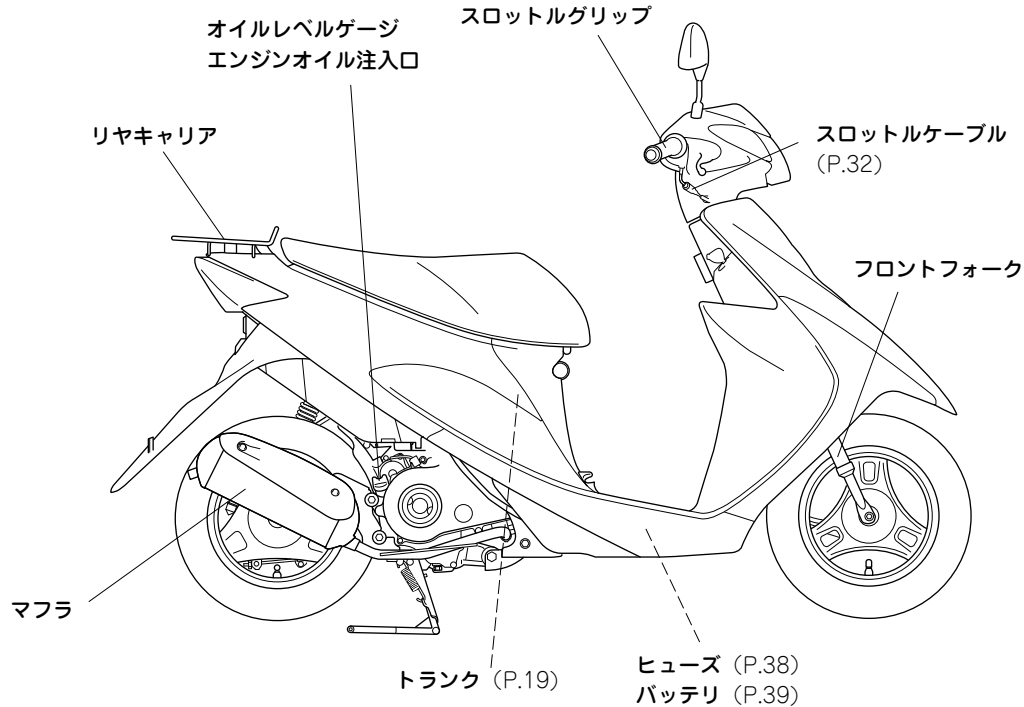
この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷する恐れがありますのでご注意ください。

▲ 注意

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

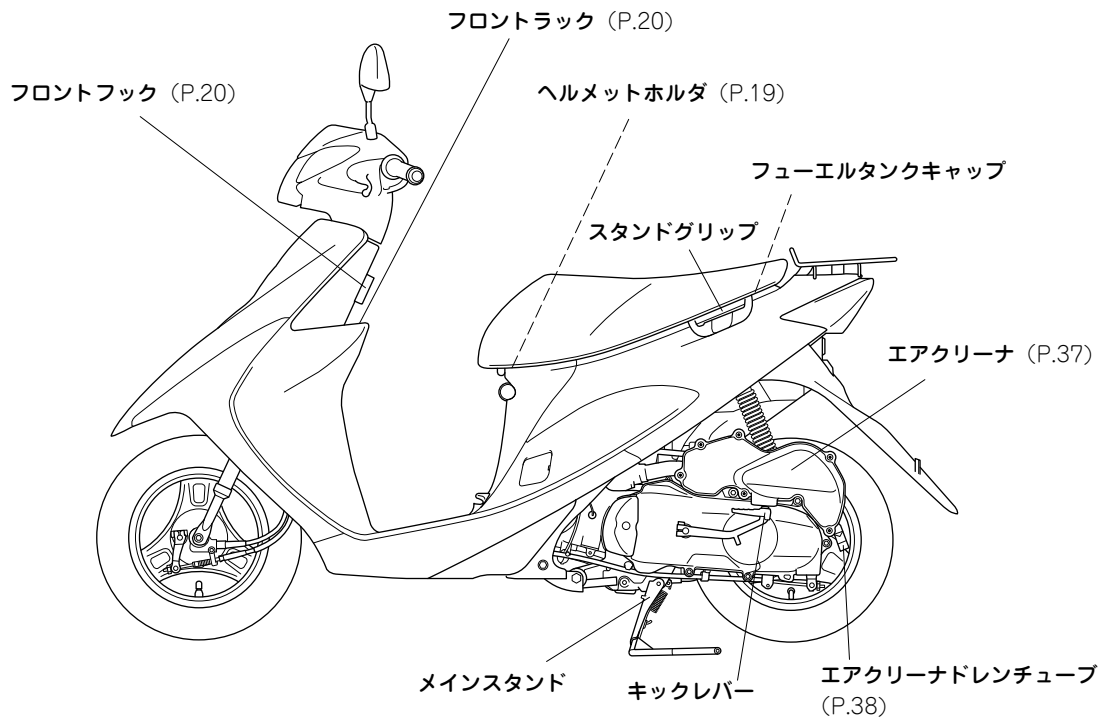
- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときはスズキ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にメインスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。
- 診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。
- 不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。
- 燃料タンク内のガソリンを使い切ること(ガス欠)のないようにしてください。

各部の名称

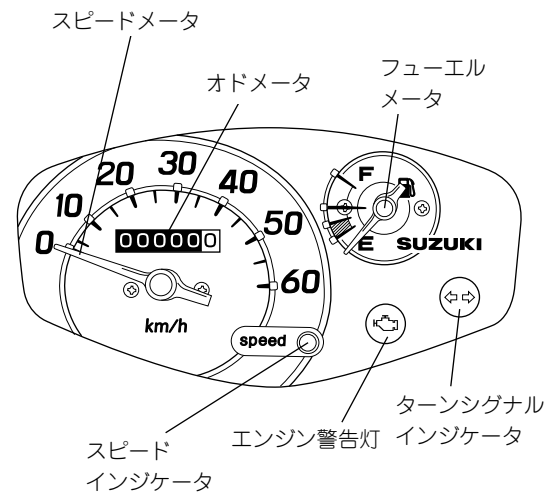
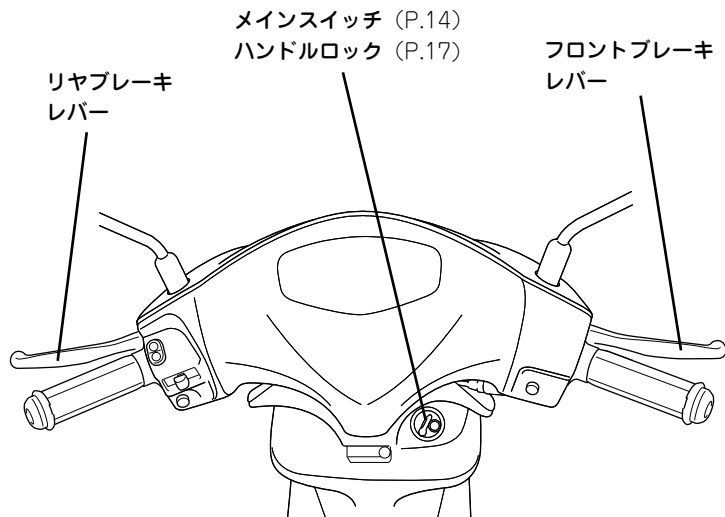


---部は見えない部分を示します。

各部の名称



---部は見えない部分を示します。



メータの見かた

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ オドメータ

- 走行した総距離を km の単位で示します。白地に黒字は100mの単位です。
- オイル交換や定期点検などの目安となります。

<エンジンオイル交換時期の表示>

1,000kmの位の数字の色が変わり、エンジンオイルの交換時期をお知らせします。



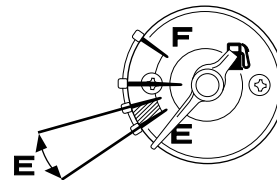
- 0～10,000km未満までは、橙色の数字に変わったとき。1, 4, 7
- 10,000～20,000km未満までは、白色の数字に変わったとき。0, 3, 6, 9
- 20,000～30,000km未満までは、赤色の数字に変わったとき。2, 5, 8
- 以降は上記の繰り返しとなります。

アドバイス

- 1,000km の位の数字の色を目安に、3,000km 毎にエンジンオイルを交換してください。
 - 交換時期がずれた場合は、次回も同じ色のときにエンジンオイルを交換してください。(10,000km 毎に目安の色は変わります。)
- <例> 初回 800kmでオイル交換をした場合、1,000kmの位が白色の 0 です。そのため、次回は同じ白色の 3 を交換の目安としてください。

■ フューエルメータ

ガソリン残量の目安を示します。指針がEの範囲に入り始めたらガソリンを補給してください。指針がEの範囲に入り始めたときの残量は約1.5Lです。



注記

燃料タンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

■ スピードインジケータ

30km/hを超えて走行すると点滅します。

■ エンジン警告灯

- メインスイッチを ON にするとランプチェックのため約3秒間点灯します。
- 燃料噴射機構に異常が起きると点灯またはゆっくり点滅します。

注記

エンジン警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- エンジン警告灯が点滅している場合は始動できません。
- エンジン警告灯が点灯していても走行できない場合があります。

■ ターンシグナルインジケータ

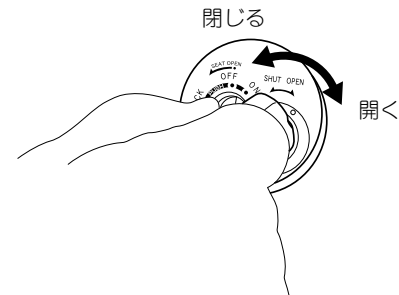
ターンシグナルが作動すると点滅します。

スイッチの使いかた

■ シャッタ付メインキー

盗難やいたずら抑止のため、シャッタ付メインキーを装備しています。車から離れるときは、シャッタを閉じましょう。

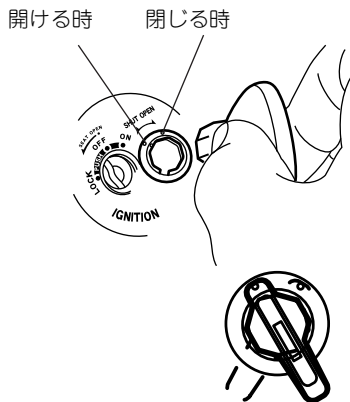
キーのマグネット部を窓にはめ込み、左に回してシャッタを閉じます。同様に右に回してシャッタを開けます。



スイッチの使いかた

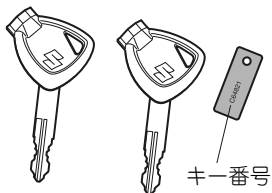
アドバイス

シャッタを閉じるときは右側のマーク、開けるときは左側のマークにキーについた矢印を合わせてください。



<キーの取扱い>

この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。



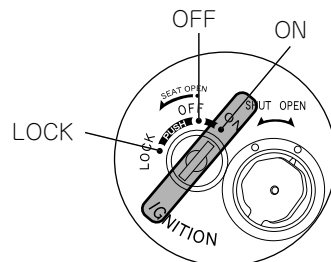
アドバイス

- キーを1本紛失・破損した際は、キーショップなどでスペアキーをもとに新しいキーを作ってください。全てのキーを紛失・破損したときは、シャッタおよびキーシリンダの交換が必要になりますので、スペアキーはしっかり保管してください。
- ブランクキーを注文するとき、プレートのキー番号が必要になります。大切に保管してください。英数字のキー番号を控えることをおすすめします。詳しくは、販売店にご相談ください。

キー番号 _____

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動、走行ができます。
- エンジンが始動するとヘッドランプ、テールランプ、メータランプが点灯します。
- スイッチ、ランプ類が使えます。
[ターンシグナル、ホーン、スタータ]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

SEAT OPEN

- キーを左に回すとシートロックが解除されます。

▲ 警告

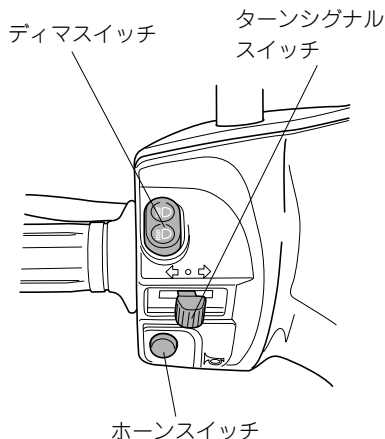
- 走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。キーは停車後操作してください。
- 衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、全ての装置を停止させます。転倒した時に、見えない部分に損傷を受けている可能性があるため、スズキ販売店にて点検を受けてください。
- 金属製や大型、重たいキーホルダは、運転の妨げになるおそれがあります。キーホルダは、布製または革製で小さく軽いものを使用し、ハンドル操作を妨げないことを確認してください。

📢 アドバイス

- エンジンをかけずにメインスイッチONのままにしておくこととバッテリーあがりの原因となることがあります。
- 車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折

スイッチを⇒側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。

スイッチを前に押してランプを消します。

左折

スイッチを⇐側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。

スイッチを前に押してランプを消します。

▲ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押し解除してください。点滅したままにしておくくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

🔊 アドバイス

ターンシグナルランプの電球(バルブ)に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを⇨側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを⇩側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注記

- ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。
- ヘッドライトにはテープ類を貼らないでください。
- 停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

<かけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら OFF から LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

ⓘアドバイス

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

<外しかた>

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

ⓘアドバイス

走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。

ⓘアドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

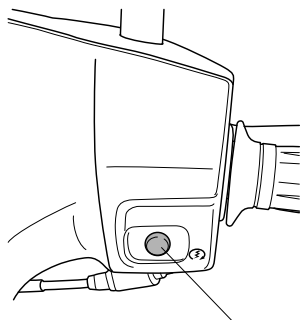
ⓘアドバイス

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が大きいためバッテリーあがりの原因となります。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

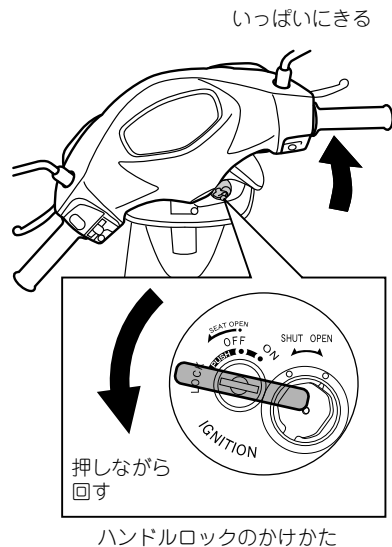
■ スタータスイッチ



スタータスイッチ

ブレーキレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。

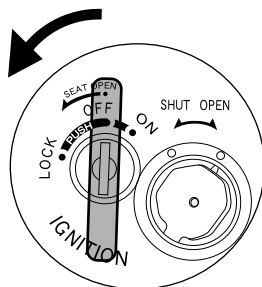
ハンドルロック



シート

トランクの使用はシートを開けて行います。

1. メインスイッチにキーを差し込み、左に回してロックを解除します。
 2. シートの後部を持ち上げ、シートを開けます。
- シートを軽く押し下げるとシートロックがかかります。



シートロックの外しかた

▲注意

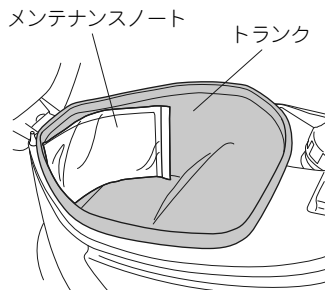
シートがロックしたことを確認してください。シートロックがかからない状態で運転すると、走行に支障をきたすことがあります。

♪アドバイス

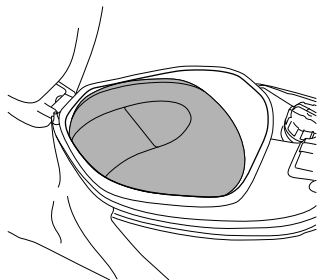
- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

トランク

シートを開けるとトランクがあります。荷物の積載は10kgまでです。メンテナンスノートはビニール袋に入れてここに保管してください。



ヘルメットは図のように入れてください。



注記

- トランク内はエンジンの熱や直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすいもの、食品、可燃性のものは入れないでください。
- トランクに荷物を入れ過ぎると、シートを軽く押し下げてもシートロックがかからないことがあります。その時は、荷物を減らしてシートロックをかけてください。シートを強く押し下げてシートロックをかけると、ロック機構の破損の原因になります。

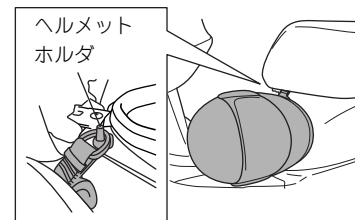
アドバイス

- 壊れやすいものは入れないでください。
- 車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。
- 雨や洗車時などトランク内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。
- ヘルメットは、その形状や大きさにより、トランクに入らない場合があります。

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. シートを開けます。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉じます。



警告

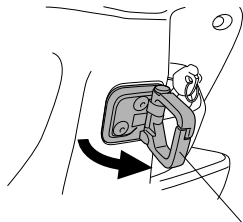
ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

アドバイス

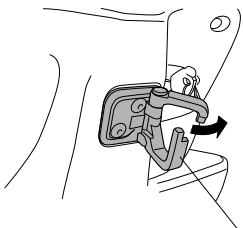
ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

フロントフック

買物袋などを掛けることができるフックを装備しています。荷物の積載は1.5kgまでです。



フロントフック



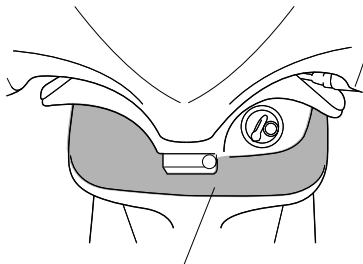
フロントフック

▲警告

フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするよう大きな荷物は掛けないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

フロントラック

小物などを収納するラックを装備しています。荷物の積載は1.5kgまでです。



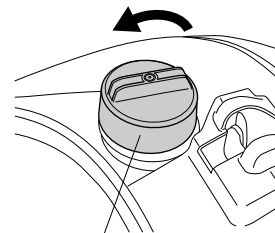
フロントラック

▲警告

フロントラックから荷物がはみ出さないようにしてください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

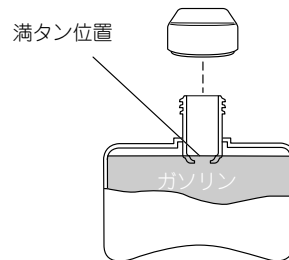
ガソリンの給油

1. シートを開けます。
2. フューエルタンクキャップを左に回して外します。



フューエルタンクキャップ

3. ガソリンを給油します。
キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端以上入れないでください。
指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：4.8L



4. フューエルタンクキャップを、右に回し確実に取付けます。
5. シートを閉じます。

▲警告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。
- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

注記

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。
- 給油時など、フューエルタンクに砂ほこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。
- 燃料タンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

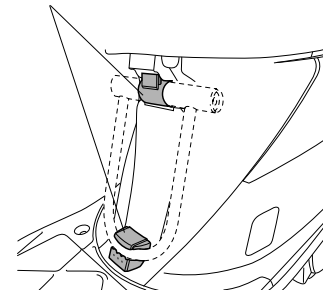
⚠️アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。その時は、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

U字ロックホルダ

オプションのU字ロックを格納することができます。

U字ロックホルダ



⚠️アドバイス

U字ロックの種類や形状、大きさなどにより格納できない場合があります。

正しい運転操作

エンジンのかけかた

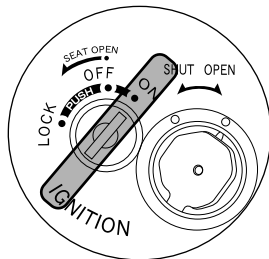
■ エンジンをかける前に

- ガソリン、オイル量を確認します。
- メインスタンドを立ててください。
- 車の左側に立ってください。

▲ 警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

1. スロットルグリップを操作し、全閉から全開まで滑らかに操作でき、手を放すと滑らかに全閉へ戻ることを確認します。
2. メインスイッチをONにします。

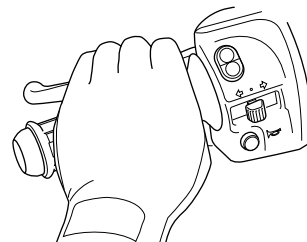


♫アドバイス

メインスイッチをONにすると、約3秒間FIの作動音がしますが異常ではありません。

3. エンジン警告灯の消灯を確認します。

4. リヤブレーキレバーを握ります。



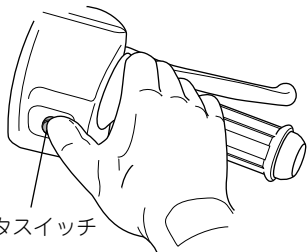
▲ 警告

飛び出し防止のため、エンジンをかけるときは必ずリヤブレーキレバーを握ってください。

♫アドバイス

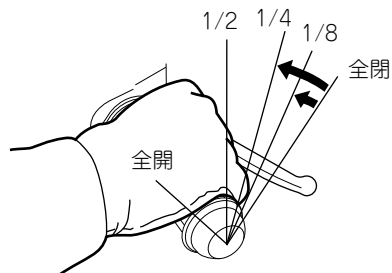
ブレーキをかけた状態でないと、エンジンはかかりません。

5. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。



スタータスイッチ

- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。



注記

エンジンがかかったらスタータスイッチ、スロットルグリップを戻してください。エンジンがかかった状態でスタータスイッチを押したままにすると、故障の原因となります。

アドバイス

- スタータスイッチを押して 5 秒以内にかからないときは、バッテリー電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。
- 長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠をし、ガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。
- スロットルグリップを約 2/3 以上回してスタータスイッチを押すと燃料及び点火が停止し、始動できないようになっています。
- 不必要な空吹きはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン、車体、触媒装置に悪影響を与えます。

エンジンのかけかた

〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（-10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

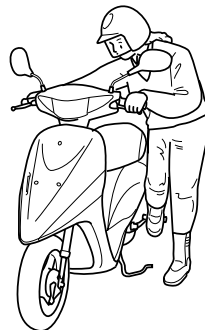
アドバイス

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因になります。

■ キックレバーを使っての始動

キックレバーを使ってもエンジンの始動ができます。

1. 「エンジンをかける前に」の項目を確認して、メインスイッチをONにします。
 2. キックレバーのペダル部分を引き出します。
 3. リヤブレーキレバーを握ります。
 4. ペダル部分を力強くキックします。
 5. エンジンがかかったらペダル部分をたたみます。
- 4～5回キックしてもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、キックします。



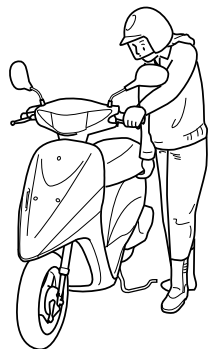
アドバイス

- エンジンがかかったらキックレバー、スロットルグリップを戻してペダル部分をたたんでください。
- 長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠をし、ガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないで、通常より多くキックしてください。
- スロットルグリップを約 2/3 以上回してキックすると燃料、点火が停止し始動できないようになっています。

発進のしかた

1.メインスタンドを外します。

キックレバーのペダル部分が正規の位置に戻っていることを確認します。左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でシート下のスタンドグリップを持ち、車を押し、メインスタンドを外します。メインスタンドを外した後に、メインスタンドが完全に納まっているかを確認します。

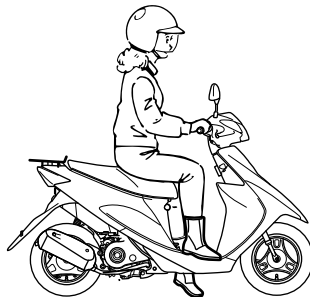


アドバイス

メインスタンドを立てたり、外したりするときは必ずシート下のスタンドグリップを持ってください。シートは持たないでください。

2.乗車します。

両手でハンドルを握ります。車の左側から乗車し、シートに腰をおろします。左足は地面につけて倒れないようにします。走り出すまではむやみにエンジン回転を上げないでください。

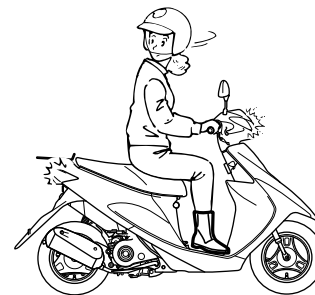


警告

飛び出し防止のため、リヤブレーキレバーは発進するまでしっかりと握っててください。

3.安全を確認します。

発進の合図（右側ターンシグナルランプの点滅）をし、前後の安全を確認します。



アドバイス

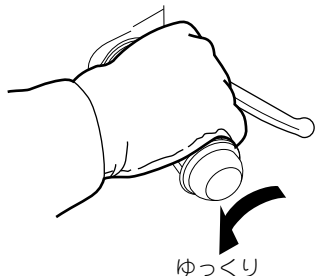
- 近くに人がいる場合、交通量の多い道路、夜間などでの発進には十分注意してください。
- 後方の車には特に注意しましょう。

発進のしかた

4. 発進します。

リヤブレーキレバーを放して、スロットルグリップをゆっくり手前に回すと車は走り出します。

発進したらすみやかにターンシグナルランプを消灯してください。



▲警告

スロットルグリップを急激に回すと、急発進して事故を起こすおそれがあります。

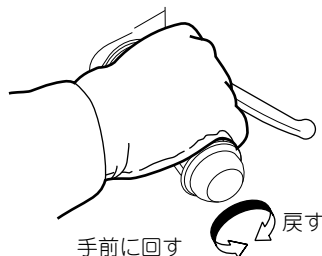
スロットルグリップでスピードを調整します。

手前に回す

- スピードが速くなります。
- ゆっくり回しましょう。

戻す

- スピードが遅くなります。
- すばやく戻しましょう。



アドバイス

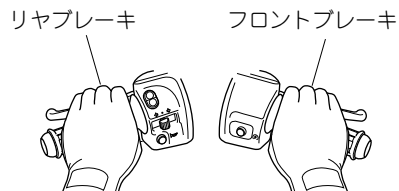
- むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

「感情的な走りはいけません

心のブレーキを忘れずに！」

ブレーキの使いかた

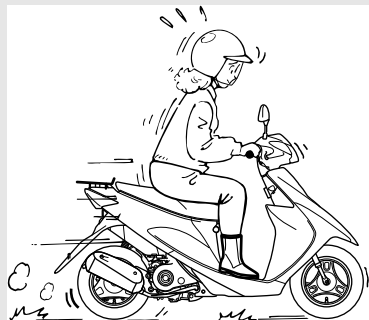
ブレーキは、前後同時に使しましょう。



- スロットルグリップをすばやく戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- 徐々にブレーキをかけ、スピードを落としていくのが上手なかけかたです。

▲警告

- フロントブレーキまたはリアブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。
- 長い下り坂などでブレーキをかけ続けると、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。下り坂にさしかかる前に、十分減速してください。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。



<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の200kmを走行するまでは、25km/h以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

注記

上り坂などで、アクセル操作でバランスを取るなどして車を停止させようとししないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

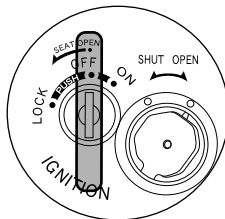
止まりかた

1. 合図を出します。

- 早めにターンシグナルランプを点滅させ他の車に注意しながら、徐々に左に寄ります。
- スロットルグリップを戻して前後ブレーキをかけます。ストップランプが点灯し後車への合図にもなります。

2. メインスイッチをOFFにします。

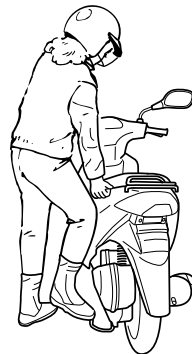
車が完全に止ったら、ターンシグナルランプを消し、キーをOFFにします。



3. スタンドを立てます。

交通の邪魔にならない平らな場所でメインスタンドを立てます。

- 左手でハンドルをまっすくにし、右手はシート下のスタンドグリップを持ちます。
- メインスタンドの足かけに右足をかけて体重をのせ、スタンドグリップを引き上げます。



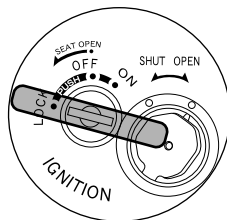
アドバイス

やわらかい路面や坂道などでは車が倒れないよう注意してください。

4. ハンドルロックをします。

車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルロックをかけ、キーシャッタを閉じてください。

☞ 17ページの「ハンドルロック」参照



アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは、車両を動かす前に、必ず外してください。

▲ 警告

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

お車の点検

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施してください。

<日常点検>

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

この車に適用される日常点検の項目は次ページをご覧ください。

<定期点検>

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

定期点検は、1年毎、2年毎に行う点検と車を使い始めてから1ヵ月（または、1,000km）に行う点検があります。

▲警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

♪アドバイス

- お車を使用しないときも定期点検は実施してください。
- お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1ヵ月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

▲警告

点検は、安全に十分注意してください。

- 平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。
- 走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。

日常点検項目

ブレーキ

- ブレーキレバーの遊び
- きき具合

タイヤ

- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

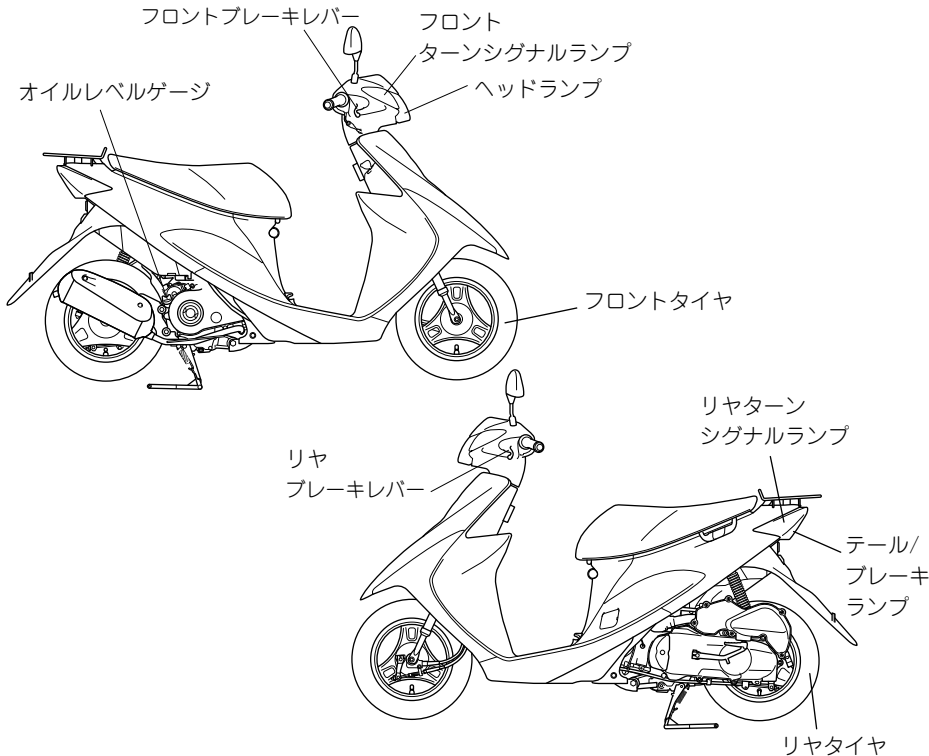
エンジン

- エンジンオイルの量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

運行において異常が認められた箇所

<日常点検・部品配置>



簡単な整備

簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

▲ 警告

- 整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。
- 平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。

注 記

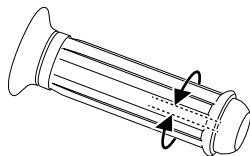
- 整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- 適切な工具を使用しましょう。
- スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。

♻️ アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検



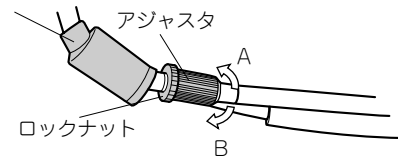
2~4mm

メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作ができるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いかが点検します。また、スロットルケーブルの遊びの量が、2~4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

■ スロットルケーブルの遊びの調整

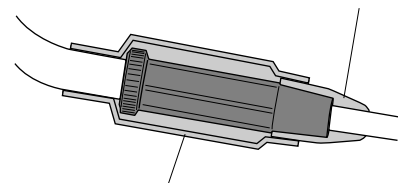
1. アジャスタにより遊びを調整します。スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。

スロットルケーブルブーツ



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかむせます。

スロットルケーブルブーツ 小

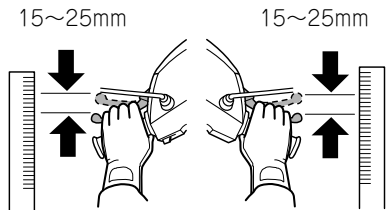


スロットルケーブルブーツ 大

ブレーキ

■ ブレーキレバーの遊びの点検

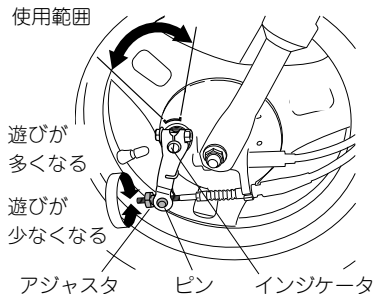
抵抗を感じるまでブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。



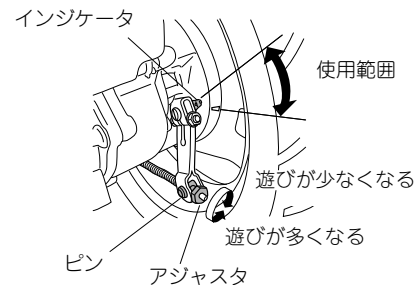
■ ブレーキレバーの遊びの調整

ブレーキカムレバー部のアジャスタにより遊びを調整します。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。

<フロントブレーキ>

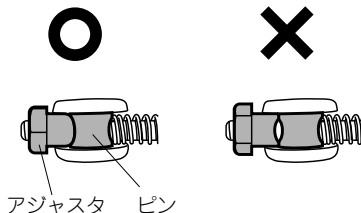


<リアブレーキ>



アドバイス

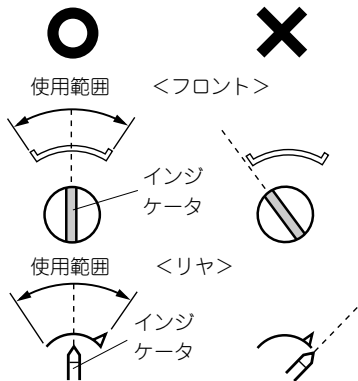
アジャスタ凹部をピンに合わせてください。適切に合っていない場合、走行中にブレーキの遊びが変化することがあります。



ブレーキ

アドバイス

- 調整後、遊びが規定の範囲内にあるかを確認してください。
- ブレーキレバーをいっぱい握ったときインジケータの延長線が使用範囲から外れる場合はブレーキシューの使用限度です。ブレーキシューが使用限度になったら交換してください。ブレーキシューの交換は、スズキ販売店にご相談ください。



エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

エンジンオイルは、走行距離や走行状況、時間の経過などの要因により劣化したり消費して減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく、日常点検による点検・補給が必要です。汚れたり劣化したオイルはエンジンに悪影響を与えますので、早めに交換してください。エンジンオイルの交換については、スズキ販売店にご相談ください。

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドルリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイルレベルゲージを外し、付着したオイルを布などでふきまします。
3. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。

4. オイルがオイルレベルゲージのアップパレルとロアレベルの間にあるかを点検します。オイル量がアップパレル以上またはロアレベル以下の場合、アップパレルとロアレベルの間になるよう調整してください。

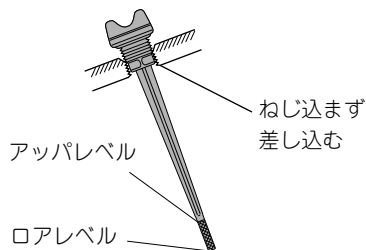
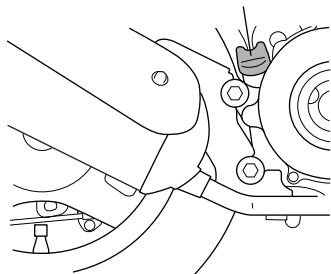
- オイル量がロアレベル以下の場合、オイルを補給してください。
- オイル量がアップパレル以上の場合、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

5. オイルレベルゲージを確実に取り付けます。

▲注意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

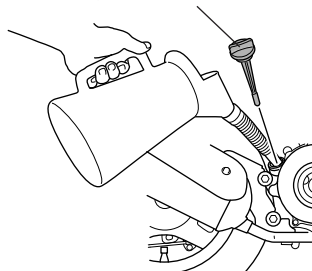
オイルレベルゲージ



■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドルリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイルレベルゲージを外します。
3. 車体を垂直にして、アップレベルとロアレベルの間に油面がくるようにオイルを補給します。
4. オイルレベルゲージを確実に取り付けます。

オイルレベルゲージ



推奨オイル： スズキ純正オイル

オイル	規格	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2		10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2		10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2		10W-40	MA2
エクスター R5000 MB スクーター		10W-40	MB

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL, SM, SN	MA(MA1,MA2), MB

交換時期：初回1か月または1,000km
以降3,000kmまたは1年ごと

エンジンオイル

▲警告

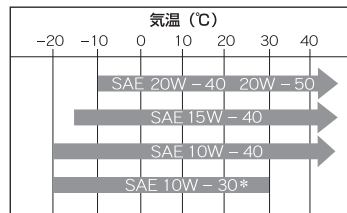
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注記

- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。
- 作業前にオイルジョッキの内部等にほこりや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。

アドバイス

- SAE10W-40のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



*APIがSG,SH,SJ,SLのもの

- オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくとも、エンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

JASO規格について

- JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。
- 二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。
- MA (MA1, MA2)とMBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

例：MAのとき



← オイル販売会社の整理番号

← 性能分類の表示
MA分類を示す

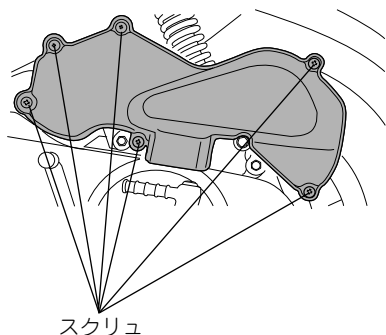
JASO T903 適合品
本MA性能の品質保証者
スズキ株式会社

エアクリーナ

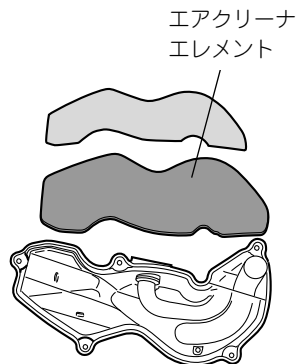
■ エアクリーナエレメントの点検

1年毎に点検してください。
ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6ヵ月毎に点検してください。

1. スクリューを外し、エアクリーナキャップを取り外します。



2. エアクリーナエレメントを取り出し、目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。

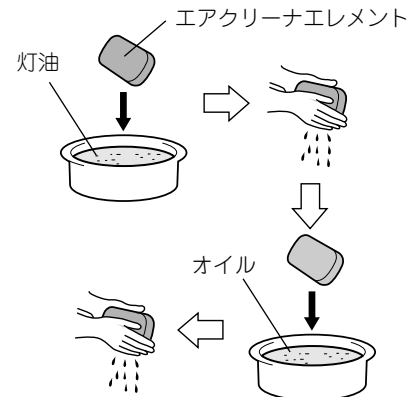


■ エアクリーナエレメントの清掃

1. きれいな灯油で洗い、しぼってから乾燥させます。
2. きれいなオイルに浸し、しぼってオイルを浸透させます。

推奨オイル：

スズキエクスターオイルスーパーデラックス



3. エアクリーナエレメントを取り付けます。

エアクリーナ

注記

- エアクリーナエレメントに劣化や損傷がある場合は交換してください。
- ガソリンや引火点の低い洗剤は、非常に燃えやすいため、エアクリーナエレメントの清掃には使用しないでください。
- エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。
- 洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。

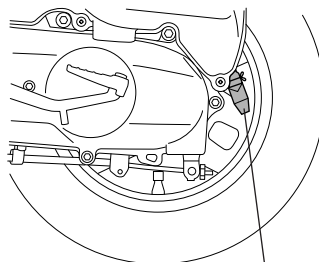
⚠️アドバイス

エアクリーナエレメントをしぼるときは、ねじらないで両手で押さえるようにしてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

1. エアクリーナドレンチューブの下に、受け皿を用意します。
2. エアクリーナドレンチューブをはずし、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
3. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

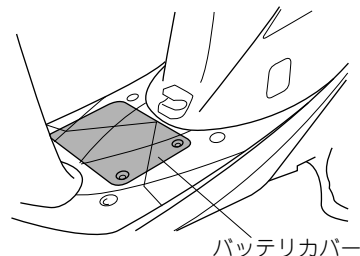


エアクリーナドレンチューブ

ヒューズ

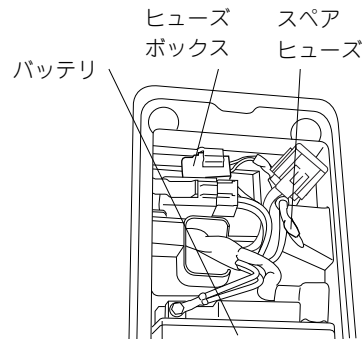
■ ヒューズの点検

1. メインスイッチをOFFにします。
2. バッテリーカバーを取り外します。

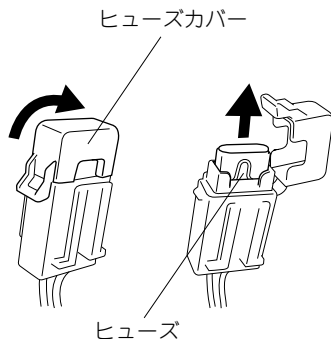


バッテリーカバー

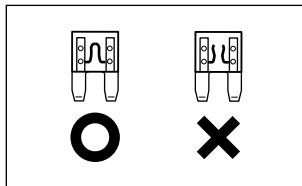
3. ヒューズボックスを取り出します。



4. ヒューズカバーを開け、ヒューズを引き出します。



5. ヒューズを点検し、切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



6. ヒューズを差し込み、ヒューズカバーを閉めます。
7. ヒューズボックスを元の位置に戻し、バッテリーカバーを取り付けます。

▲警告

指定容量を超えるヒューズは配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注記

- 電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときはスズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- 洗車時、ヒューズのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。

♪アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリー

■ バッテリーの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

▲警告

- バッテリーを取り扱う前に、バッテリーに貼付されている注意文をよく読んでください。
- バッテリーには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。
- バッテリーは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。
- バッテリーは、子供の手の届くところに置かないでください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。

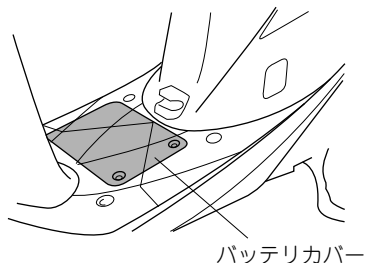
バッテリー

<バッテリー液が付着した場合は・・・>

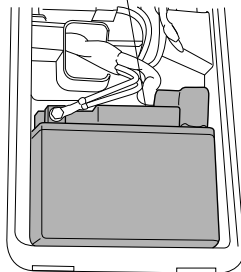
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリーターミナル部の清掃

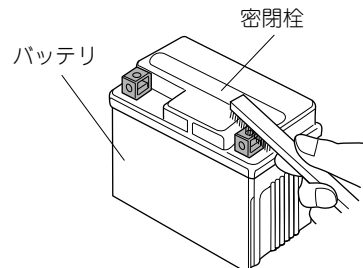
1. メインスイッチをOFFにします。
2. バッテリーカバーを外し、バッテリーを取出します。



バッテリー



3. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパーで磨いてください。
4. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリーを取り付けます。



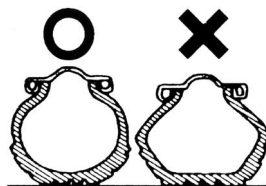
アドバイス

- バッテリーコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、⊖側を先に外してください。取り付けるときは⊕側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、⊕側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリーを交換する時は、同一型式のメンテナンスフリーバッテリーと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.45のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤ接地部のたわみ状態を見て、空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して空気圧を点検し、適切な空気圧にしてください。



タイヤ空気圧

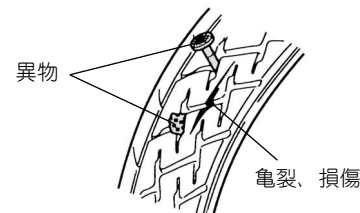
前	125kPa
後	175kPa

▲ 警告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤ接地面および側面の全周に、亀裂や損傷が無いかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



■ 異常摩耗の点検

タイヤの接地面が、異常に摩耗していないかを確認します。異常に摩耗している場合は、スズキ販売店へご相談ください。

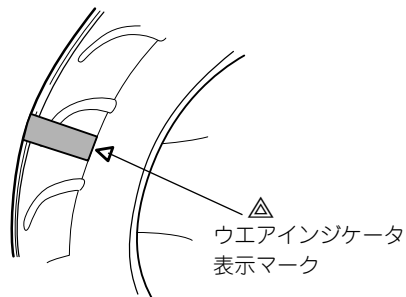


タイヤ

■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。

ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後1.6mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	80/90-10 35J
	種類	DURO D39
後	サイズ	80/90-10 35J
	種類	DURO D39

警告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

新しいタイヤはスリッしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属を錆びやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れをおとします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。

車体を乾燥させた後に、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部ヘグリースなどを注油、サビ予防のためにワックスかけを行ってください。



注記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。
- シート下から強く水をかけないでください。内部へ水が入り、書類等がぬれるおそれがあります。

アドバイス

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 洗車後や雨天走行後にヘッドライトのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドライトを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリー上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドライトを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- スロットルケーブルのブーツ

プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

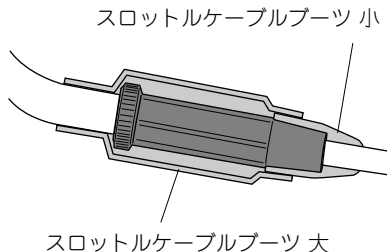
注記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- コンパウンド入りワックス
- 油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品
- 酸性・アルカリ性の洗剤
- ブレーキ液、ガソリン、有機溶剤など

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。



アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.32を参考に取り付け直してください。

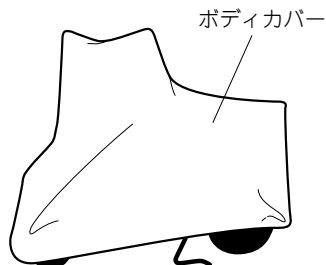
つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。




アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- 保管前に各部のワックスかけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は、ターミナルを外してください。

※充電については、スズキ販売店にご相談ください。

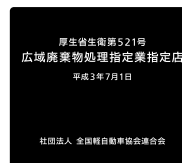
環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリー、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。

廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。

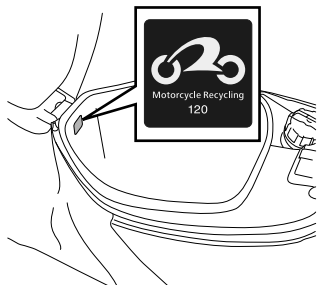


廃棄二輪取扱店の証

環境を保護するために

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。

(財)自動車リサイクル促進センター

ホームページ： <http://www.jarc.or.jp/>

主要諸元

項 目		諸 元
		アドレスV50
長 さ		1,670mm
幅		620mm
高 さ		1,005mm
軸 距		1,150mm
車 両 重 量		74kg
乗 車 定 員		1人
タイヤサイズ	前	80/90-10 35J
	後	80/90-10 35J
最 小 回 転 半 径		1.8m
エ ン ジ ン 形 式		4サイクル・単気筒
冷 却 方 式		強制空冷
燃 料 供 給 方 式		フューエルインジェクション
総 排 気 量		49cm ³
内 径 × 行 程		39.0×41.8mm
最 高 出 力		2.7kW/8,500rpm
最 大 ト ル ク		3.4N・m/7,000rpm

項 目		諸 元
ク ラ ッ チ 形 式		乾式シュー・自動
ト ラ ン ス ミ ッ シ ョ ン		ベルト・自動
減 速 比	1次	3.500
	2次	4.000
変 速 比		2.707~0.797
ブ レ ー キ 形 式	前	リーディングトレーリング
	後	リーディングトレーリング
フ ェ ー エ ル タ ン ク 容 量		4.8L
点 火 方 式		フルトランジスタ式・バッテリー点火

サービスデータ

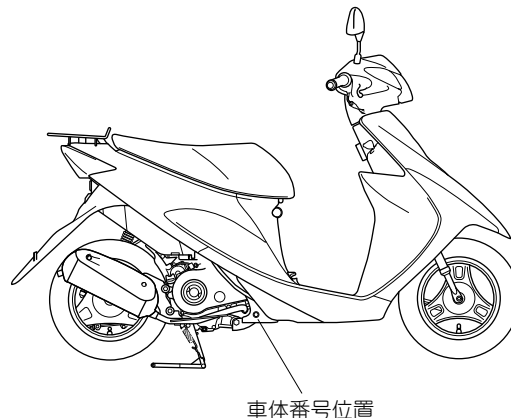
項 目		調 整 値	
フロントブレーキレバーの遊び		15~25mm	
リアブレーキレバーの遊び		15~25mm	
タイヤ空気圧	前	125kPa	
	後	175kPa	
エンジン オイル量	オイル交換時	0.7L	
	全 容 量	0.8L	
スパーク プラグ	種 類	NGK	CR6HSA
		DENSO	U20FSR-U
	ギャップ		0.6~0.7mm
バッテリー	種 類	FTX4L-BS メンテナンスフリー	
	容 量	12V-3Ah	
ランプ	ヘッドランプ H/L	12V 35/30W	
	ストップ/テール	12V 18/5W	
	ターンシグナル	12V 10W	
ヒューズ		10A	

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機 種	アドレスV50
車台番号	

車台番号はフレーム右側下部に打刻してあります。



お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 機種、型式、車台番号
- ② 購入年月日 ④ 相談事項
- ③ 走行距離 ⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611 浜松市南区高塚町 300

スズキ株式会社

お客様相談室

◆ フリーダイヤル  0120-402253

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。

(<https://www.suzuki.co.jp>)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない

- かけかたは取扱説明書とおりですか？
- ガソリンは入っていますか？

ブレーキがきかない

- ディスクブレーキはブレーキパッドの摩耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください。

ランプ類が点灯しない

- ヒューズが切れていないかを点検してください。